

令和6年度 第4回大腸がん死激減プロジェクト連絡会議 議事要旨

日 時：令和6年11月27日（水）19:00～20:15

場 所：Zoom を利用した Web 会議

出 席：10名

浅野志麻（沖縄県立宮古病院）、有賀拓郎（琉球大学病院）、
金城達也（琉球大学大学院）、金城徹（琉球大学病院）、佐村博範（浦添総合病院）、
仲宗根正（那覇市保健所）、仲地厚（友愛医療センター）、本部卓也（中部病院）、
宮城政剛（新川クリニック）、増田昌人（琉球大学病院がんセンター）

欠 席：5名

糸数公（沖縄県保健医療部）、玉城研太郎（那覇西クリニック）、
豊見山良作（那覇市立病院）、宮里浩（那覇市立病院）、
山本孝夫（沖縄県立八重山病院）、

陪 席：1名

西佐和子（琉球大学病院がんセンター）

【報告事項】

1. 令和6年度 第3回大腸がん死激減プロジェクト連絡会議議事要旨について
増田委員より、資料1に基づき議事要旨について説明があった。
2. 進捗評価のための41市町村へのアンケートについて
増田委員より、資料3に基づきアンケートの結果について報告があり、特に、国がんが主催する全国がん検診従事者研修を受けていない市町村の担当者が多いと指摘があった。
浅野委員より、研修を受けることでインセンティブを得られる制度があれば、研修を受ける人が増えるのではないかという意見があった。
3. 進捗評価のための25施設へのアンケートについて
増田委員より、資料4に基づきアンケートの結果について報告があった。次回の会議では具体的なデータを示せばとのことだった。
4. 研修会について
増田委員より、資料5に基づき「ロジックモデルと指標の活用の仕方を身につける研修会」について、案内があった。拠点病院ではない所属の方でも参加可能ということだった。

【協議事項】

1. 大腸がん死激減プロジェクトの進捗状況について

- (1) 予防
- (2) 検診
- (3) 医療

①進捗

増田委員より、資料6に基づき、ロジックモデルの進捗状況について、指標の数値が出揃ってきたとの報告があった。続いて、参考資料として、消化器外科専門医、大腸肛門病専門医の都道府県別人数の推移について説明があった。

佐村委員より、大腸肛門病専門医の養成について、元々、修練施設がなかったため、内科の協力を得ながら専門医の数を増やしてきた経緯がある。しかし、専門医を目指す人が少ないため、専門医の数はなかなか増えない現状があるとのことだった。続いて、仲地委員より、大腸肛門病専門医を取得するには専門施設での期間が3年必要であり、臨床を行っている医師は施設移動をすることができないため、専門医の取得が難しい状況にあるとのことだった。一方で、金城徹委員からは、消化器内科医についても、実感としてその数が少ないと感じているとのことだった。

仲宗根委員より、日本公衆衛生学会でのがん検診に関するシンポジウムについて報告があった。従来、郵送時の温度管理に対する懸念があったが、最近のキットはある程度耐えられるようになっており、約三日間は検査結果に影響を与えないことが分かった。今後は郵送を活用できる見込みがあると理解しているとのことだった。

②大腸がん治療方針に関するコンサルとシステムの構築について

前回から進捗がないため、報告なしとなった。

2. その他

増田委員より、次回の会議で、放射線照射装置がない病院に対して放射線治療がどのように関わっているかについて議題に上げることが提案された。